

モモジョイント V 字トリス栽培の果実生産性

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹—モモ—栽培

2 担当者

安達義輝・桑名篤・三田村諭・南春菜・渡邊善仁・増子俊明

3 要旨

多樹種共通の樹形と汎用性の高い作業機械を組み合わせることで大幅な省力化を図ることを主眼に、モモのジョイント V 字トリス栽培(JV 栽培)法を検討している。モモ JV 栽培樹は定植2年目でほぼ成園となり、収量や果実品質は慣行と同等であった。

- (1) モモ JV 栽培樹は、地上 80 cm で主枝を水平誘引して隣接樹の基部とジョイント(接木)し、側枝を概ね仰角 60° の平面に配置する列状密植樹形である(図1)。樹高は概ね 230 cm 以内とし、結果枝配置は地上 100~200 cm とするため、脚立を使用する必要がなく、作業姿勢の改善や作業動線の直線化による作業性の向上と労働時間の短縮が期待できる。
- (2) モモ JV 栽培樹の樹冠占有面積は、定植2年目に成園相当となった(図2)。
- (3) 定植3年目収量は約 2t/10a で、慣行栽培(開心形)の 80% であった(図3)。果実重やその他の品質に明瞭な差は認められなかった。

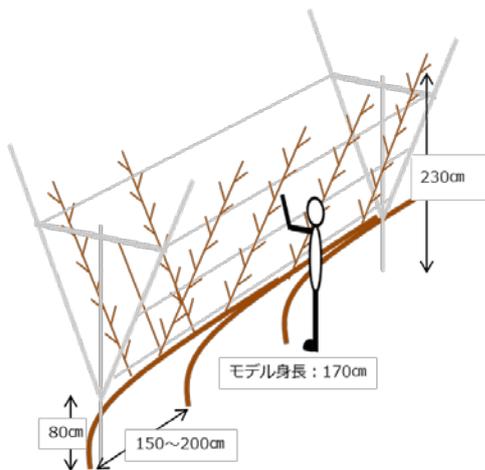


図1 モモ JV 樹形のモデル図

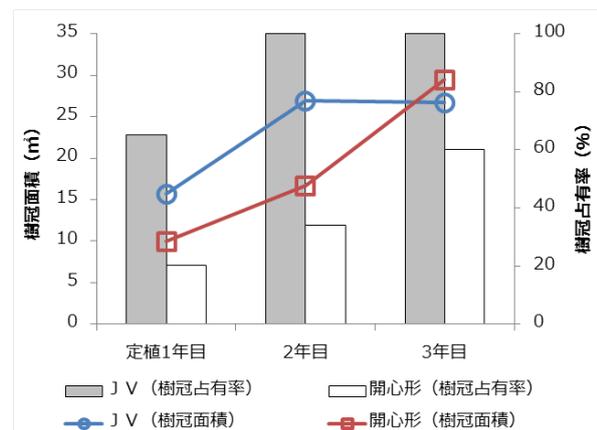


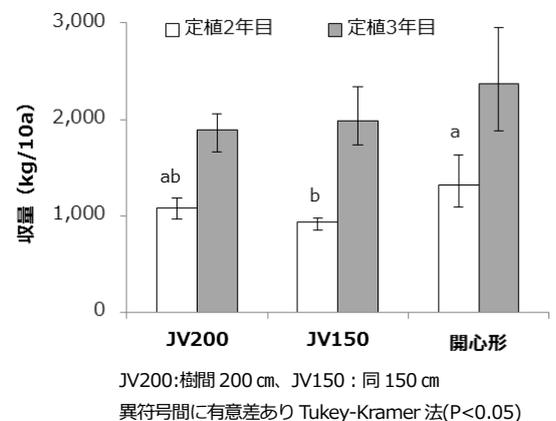
図2 モモ JV 樹形の樹冠拡大の推移

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 28 年度~30 年度
- (2) 研究課題名 果樹のジョイント栽培等新技术の導入による革新的栽培技術体系の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料

- (1) モモジョイント V 字トリス栽培の果実生産性(安達ら, 園学雑 17 別 2, 2018)



(活用した事業名: 農林水産省:革新的技術開発・緊急展開事業(うち先導プロジェクト・人工知能未来農業創造プロジェクト))